

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の一員であることを全員に認識させ、積極的に地域と関わっている	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を毎日の朝礼で唱和し、職員全員が理念に沿って支援できるようにしている	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	認知症の症状があっても、地域の方々と変わりなく付き合い、生活していることを、二ヶ月に一回の運営推進会議で説明している	地区の行事や、活動への積極的な参加
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・行事や、演芸などのボランティアが来た時には地域の方々にも声をかけている。 ・近隣の方々から野菜を頂いた時は、調理に活用している ・施設のDSを会議室として貸し出したり、駐車場を希望時には貸し出している	災害時には施設の自動通報システムで近隣の方々へ連絡が入り、救助などの協力をさせていただけるようになっている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域のお祭りでご利用者様が歌を歌われる ・月二回の地域の防犯パトロールに参加している ・地域の方々をお招きして、「患者塾」を開き、医療や介護についての講話を開いている ・中学生の体験学習を受け入れている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区役員に働きかけをし、介護の相談、アドバイスをしている		防犯パトロール時に、高齢者の方々へ声かけをし、生活面などで役立つ事はないか話を聞く
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かして、各階のスタッフ会議および、合同スタッフ会議で話し合い、改善に向けて努力している		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月間の活動状況を報告し、包括や地域の方々のご意見をリーダー会議にて検討、実行している	○	運営推進会議にご家族様がもっと出席していただけるように工夫する
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	さまざまな内容の相談をしている	○	運営推進会議への出席を依頼している
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度をご利用されているご利用者さまが数名入居されており、司法書士へ連絡をとり、話し合いをしている。職員は研修に参加し、学ぶ機会がある	○	成年後見制度について、もっと学ぶ必要がある
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いを含め、拘束をしないよう防止につとめている。職員は虐待について研修で学び、共通の認識をもつようになっている。		職員の疲労や、ストレスがケアに影響していないか把握する

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・ケアマネと十分な説明を行い、理解をしていただいた上で契約・解約をしている。 運営理念、重要事項説明書、パンフレットを玄関ホールに掲示している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その都度、すぐに管理者へ報告し職員で話し合い、対応していくことで信頼関係を取るようになっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・面会時に、日々の様子を報告。特変時には電話連絡をしている。月に一度は文書にて状況を報告している。 ・金銭は、事務で一括管理し、月に一度ご家族に文書で報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見、不満、苦情については、職員から管理者へすぐに報告し、早急に対応し、合同会議で議題にあげ、職員一同真摯に受け止めている。 ・玄関ホールに意見箱を設置している	管理者から施設長に報告し、原因を調査し、対策を講じている。その後、ご家族へ説明をしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、施設長・管理者・全スタッフ参加の会議を行い、意見や提案を自由に議論している。	問題発生時は早急に会議を開いている
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	各階のリーダーが勤務表を作成し、施設長・管理者がチェックしている。 緊急時には管理者が対応し、通常業務ができるように人員を確保している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・施設内合同のレクリエーションを通じ、職員がフロアごとに分かれないうように対応している。 ・ご利用者様の違和感を取り除くために、施設合同レクリエーションを行い、常日頃さまざまな職員が関わりをもつようになっている。	ご利用者様が、自由に他のフロアに行き、お茶を飲めるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・職員全員が研修をうけるように確保している。</p>	<p>研修会で学んだ事を、勉強会で発表し、職員全員で情報の共有を行っている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム連絡協議会の研修などを通じ、他施設との交流を図り、情報の交換をしている。</p>	<p>○</p> <p>地区社協の地域ケア会議での地域の課題や福祉活動などの意見を役立てたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・年3回、レクリエーションの機会を設けている</p> <p>・希望休を聞き入れ、勤務表を作成している</p>	<p>バレーボール大会などをスタッフ同士で行っていききたいと思う</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者から施設長へ職員の勤務状況の報告をし、職員個々のレベルに合わせた指導を行っている。</p>	<p>○</p> <p>管理者が職員の状態を知るための面談を年一回行っていききたい</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>可能であれば、ご本人との面談の機会を作り、顔を合わせて傾聴し、助言をしている</p>	<p>○</p> <p>ご利用者様との会話の時間を大切にしている</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面談の機会を作り、可能であれば来設してもらい、環境を確認して安心いただいている。</p> <p>傾聴し、助言している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	空室がある時は迅速に対応ができています。 他施設への紹介や対応も積極的に行っている		ご家族とご本人様の希望を聞き入れ、ご利用者様らしさを生かした対応をしていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所日までに一週間時間をとり、お茶を飲みに通ってもらい、場所やスタッフに慣れてもらったケースもある。		職員の声かけを多くし、ご家族様に状況説明を行いながらコミュニケーションを図っている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はより多くの時間をご利用者様と接し、会話を行うことで信頼関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気軽に面会に来られるような雰囲気作りに努めている。 情報を共有し、相談をしながらケアを進めている。		面会に来られた際、状況説明を行い、不安を取り除く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の面会時にご利用者様とゆっくり話しのできる空間作りや、落ち着いて過ごして頂けるように対応している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からの情報を会話の中に入れ、思い出話などを聞くようにしている。		写真、置物など、馴染みの物をお部屋に飾っている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係を把握し、支え合う支援と共に、お一人お一人がストレスなく過ごせる時間(個別ケア)も大切にしていく。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、環境に馴染むまでは様子を見るように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な方は、じっくり傾聴し、聞き取りを行っている。訴えをスムーズに表現できない方からは、行動を分析し、思いを把握するよう努力している。		カンファレンスを行い、職員間でご利用者様の背景に浮かぶ事を話し合い、その人らしさを失わず対応を行っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な方には家族から聞き取りしている		センター方式の用紙を活用し、これまでの暮らしの把握を行っている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の介護記録にて情報収集するようにしている		日誌の記入と、申し送りノートを活用している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	処遇会議(スタッフ会議)と家族を交えたカンファレンスを実施している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	処遇会議(スタッフ会議)を臨時的に行う事で対応している。		職員に対し、変化を見逃さない様に指導している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の充実を図っている		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	業務に捕らわれることなく、利用者様中心その時の要望に応じて、柔軟に支援している		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	二ヶ月に一回、自治会・包括支援センターのケアマネ・ご家族と運営推進会議を行い、協力をいただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要時には連携をとっている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議時に助言をいただいている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設しているクリニックにいつでも受診できる状態である		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医が認知症支援医療機関なので、いつでも相談したり、診療が受けられるようになっている		医師との関係を築きながら、利用者様の変化はすぐに相談している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	各フロアに一名ずつの看護職員がいますので、医療的なことは指示をもらっている。 併設しているクリニックの看護師も気軽に相談できる		日々のバイタルチェックを行い、利用者様の体調を記録に残し、申し送りを行う
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と情報交換に努めている。 職員が直接医療機関に向かうこともある		利用者様のサマリーの交換や、スタッフが面会に行き、状況を聞く
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望をできるだけ聞き、主治医と相談しながら支援している。ケアマネを中心に全員で方針を共有している		利用者様の状況を把握しながら、ご家族、医師と連携を取り、話合っている
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医と連携をとり、看護師を中心にチームケアに取り組んでいる		こまめに情報を得て、医師の意見を聞き、ご家族に連携をとっている
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	管理者、ケアマネが情報提供を行っている。 センター方式による情報なども提供し、ダメージを少しでも防ぐように努めている。		ご家族と連携をとり、利用者様の馴染みの物を移動していただき、変わらない生活を送っていただくようにしている



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報の保護の誓約をしている。利用者様のプライドを傷つけないような言葉遣い、対応に心がけている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	職員のコミュニケーション能力を高める為、研修を利用している。生活の中では、自己決定に導き、急かさずに、ゆっくりと支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の気持ち、体調を大切にしながら、その人らしい生活ができるように支援している	ご利用者の気持ちを第一に考え、生活歴などをよく知り、その人らしい生活を送れるようにしている
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の行きつけがある時には行ってもらい、朝の身だしなみやお化粧を楽しんでいただいているように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けのできる方にはスタッフと共に片づけをしていただいている。月に一度、外出や外食をしている。	もやしの根とり、いりこの頭とりは積極的にして頂いている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族に協力してもらい、個人で好みのお菓子などを購入してもらっている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握して、オムツから布パンツに変更した(男性三名) 排泄ケアの研修全員参加する		食事前後にトイレ誘導や声かけを行い、排泄リズムを作っている
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	清潔保持と同時に、入浴を楽しめるような雰囲気而努力している。 声かけを一番注意している		本人の意志を聞き入れ、入浴時間などの希望を取り入れる
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中活動し、夜はぐっすり眠っていただけるように、寝る前は安心されるように支援している		レクリエーション、散歩、遠足など取り入れ、日中の覚醒に心がけている
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中での役割、本人の楽しみごとである。 趣味を続けられるように支援している		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、わずかな金額を所持していただいている。 買い物時は預かりの小遣いから1000円程度渡し、自分で使われている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ戸外に出かけられるように行事に取り組んでいる		福祉バスを利用し、季節感を味わう為、公園などに遊びに行く
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足は、社会福祉協議会の福祉バスを利用して、ご家族参加で支援している。		毎月一回、外出に行っている。 ご家族にも参加していただき、外出する気分を味わってもらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望で、いつでも電話、手紙のやり取りができるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるように玄関先を工夫したりしている		ホール、あるいは居室にて過ごしていただいている
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、スタッフ会議などで指導している		身体拘束などの研修に参加し、理解をする
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	弊害は理解しているが、職員が緊急対応中はやむおえず鍵をかける場合がある	○	ドアなどに音が出るものを設置して、ご利用様が外へ行った時は、スタッフも付き添いを行う
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者様を見守りしやすい場所に居るようにして安全に配慮している		スタッフは常に利用者様の側で業務を行っている
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者様の状態に応じて管理している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメント研修をマニュアル化し、防止に取り組んでいる		勉強会を行い、事故防止の対策などを話し合い、知識を高めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	赤十字の救急法の訓練を定期的に行っている(年一回)		急変時だけでなく、体調管理など併設するクリニックの医師へ確認、指導していただいている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を定期的に行っている。 地域に自主防災対を作っていただき、すぐに強力を得られるようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	常に家族と連絡をとり、管理者・ケアマネから説明をしている		起こりうるリスクについて、入居契約時や、体調の変化時など、ご利用者様の状態にあった説明を常に行っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化、異常時には併設しているクリニックへすみやかに連絡し、受診している。もしくは、ご家族対応にて受診していただいている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬を管理し、職員に指導している		薬剤情報提供書などを用いて理解をしている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便障害について勉強会を開き、学んでいる。 水分、食事摂取量、運動、ストレスなどを工夫し、コントロールしながら生活していただいている。		ご利用者様の排便コントロールを知り、運動の声掛けや、水分摂取などを調整し、行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは、ご利用者様と職員が一緒に行い、支援・チェックしている。		毎食後、声掛けをして口腔ケアを行い、就寝前には義歯の洗浄を職員が行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に添ったメニューを基本とし、お一人お一人の嚥下に合わせた調理をしている。 水分摂取が不足している場合は、補助飲料で補っている。		水分制限のあるご利用者様や、自己での摂取が困難なご利用者様は、水分チェック表を用いて管理している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設長の指示のもと、速やかに対策委員会を立ち上げ、職員全員で感染防止に努め、ご家族にも強力をお願いしていただいている。		感染予防委員会を併設するクリニックの医師を中心として立ち上げ、活動中である。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理栄養士の指示で、毎日新鮮な食材を使用している。 冷凍、乾物以外は一日分の納品で、その日に使い切っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	環境整備委員会を立ち上げ、日々の清掃以外にも年4回整備を行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が危険でないように配慮し、季節の花や絵を飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者様と近くになるように席を工夫し、生活感を出した空間作りを心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の好きなものや、馴染みの物を居室内に置いている。気に入った服はすぐに着られるように壁に下げられるようになっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内環境はマニュアルを作成し、ご利用者様の状態を確認しながらこまめに調整している。		環境整備委員会の支持のもと、定期的に空調の清掃をする
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットの座位で足が床に付き、介助なしでも立ち上がりやすい高さになっており、身体機能に合わせた工夫を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員の声掛けにより、出来る事は自己にてやっていただく。トイレなどの表示も分かりやすく、壁に大きな張り紙をし、居室には表札をかけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周を散歩しながら歩行訓練をしている。花壇の草とりを手伝われることもある。	○	一階の南側の庭を畑にして、ガーデニング療法を行っていくように検討中である

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・運営推進会議を役立て、地域貢献をする
- ・ご利用者様が自由に出入りできる庭作り
- ・ご家族との連携をより深めてゆきたい